



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1-2ページ

新人紹介

3-4ページ

事務局通信

5-8ページ

学術局(成人)

9ページ

学術局(小児)

10ページ

学術局(生涯学習)

11ページ

学術局(新人教育)

12ページ

地域局

(南薩地区担当)

13ページ

社会局

(地域リハ・広域)

14ページ

社会局

(地域リハ・市内)

15ページ

社会局

(公共事業・保険)

16ページ

社会局(広報局)

17ページ

財務局

18ページ

編集男誌

巻頭言

鹿児島県言語聴覚士会 副会長

第13回九州地区学術集会鹿児島大会 実行委員長 竹中 恵太

県士会会員の皆様、平素より県士会の活動に対しご理解とご協力いただきありがとうございます。
朝晩と日中の気温差で秋への移り変わりを感じる季節となってまいりましたが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。寝不足になる人と心揺さぶられる多くの名シーンが生み出されたパリオリンピック・パラリンピックも記憶に新しいですが、記録的大雨や台風といった自然災害も猛威を振るっています。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、来たる2025年3月22日(土)～23日(日)にカクイクス交流センター(かごしま県民交流センター)にて開催いたします、第13回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会までいよいよ半年となりました。大会長の原口会長を中心に実行委員も魅力ある九州地区学術集会となるよう、また、参加して下さる方々が少しでも増加するよう広報を行い、参加して下さった方々が満足感と学びを得られるよう検討を重ねております。今回はこの機会に改めて第13回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会についてご紹介させていただきます。

今回のテーマは、「守破離」～私たち言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか～です。STも4万名を超えるまでに増加し、様々な言語聴覚療法へのニーズに応えられるようになってきておりますが、2025年、2040年問題と大きな変革を迎えるこの時代に、私たち言語聴覚士も、医療、介護そして社会全体のパラダイムシフトに合わせた革新と、先達が築き上げてきた言語聴覚士という専門性やアイデンティティを守りながら力強く発展させていく必要があります。その手がかりをつかむことを鹿児島大会の目的とし、「守破離」～私たち言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか～がテーマとなりました。

この「守破離」～私たち言語聴覚士は何を守り、発展、革新させていくのか～というテーマに沿った様々なプログラムを企画しておりますので、少し紹介させていただきます。

鹿児島県は昭和64年より鹿児島高次脳機能研究会を創設し、知見の普及などに努めてきた背景などもあり、伝統的には高次脳機能に取り組む風土が根付いていました。そのため、今回の鹿児島大会では高次脳機能にフォーカスを当て、特別講演1では志学館大学人間関係学部教授 飯干紀代子先生による「言語聴覚士の臨床/研究/社会貢献の今と未来を考える」、特別講演3ではNPO法人LD・Dyslexiaセンター理事長 宇野彰先生に「STにとっての専門性:失語症から発達性ディスレクシアの臨床と研究」というタイトルでそれぞれから高齢者の認知症やICTを用いたリハビリから小児の読み書き障害までの特別講演を企画しております。特別講演2では森之宮病院リハビリテーション部部長 椎名英貴先生に「dysarthriaに対する介入 エビデンスと未来に向けて」をご講演いただきます。

言語聴覚士の領域としては、摂食嚥下障害の対応を望まれることが多いのが現状となり、摂食嚥下リハビリテーション領域では、NMESなどの物理療法も臨床での拡がりをみせていますが、養成校での講義などはまだまだ少なく、本当に理解して使用できているのかを確認できるような、基礎的な学習から電気治療の本質について考えるプログラムとして、鹿児島大学病院言語聴覚士 有馬春香先生による「NME Sセミナー」と題し実演を交えながらお話しいただきます。

市民公開講座では、高齢化社会とともに増加し続け、認知症との因果関係も明らかとなってきている加齢性難聴をはじめとした聴覚機能の低下による身体の衰え(フレイル)の一つを示し、「聴覚機能の衰え」とともに、周囲との関わり合いが大きく変化し、フレイルやフレイル傾向となってしまうことを指す「ヒヤリングフレイル」について、提唱者であるユニバーサル・サウンドデザイン株式会社代表取締役/ファウンダー 聴脳科学総合研究所所長 中石真一路先生にご講演いただきます。

新人紹介

公益財団法人慈愛会

今村総合病院 岡元 芽育

私は令和6年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、4月より公益財団法人慈愛会 今村総合病院に勤務しております。

当院は、急性期病棟、回復期病棟、精神科病棟を有し、垂水市との地域連携を通じて包括的な医療サービスを提供しています。特に脳卒中後のリハビリテーションに力を入れており、言語リハビリだけでなく、嚥下リハビリ、高次脳機能評価、さらには小児を対象とした言語相談まで幅広い支援を提供しております。

私の所属する一般総合リハビリテーションチームでは、理学療法士50名、作業療法士21名、言語聴覚士20名が在籍し、専門分野を活かしながらチーム医療に取り組んでおります。「慈愛の心を持ち、患者様と共に目標に向け最大限の努力をする」の理念のもと、患者様一人一人に寄り添い、最善のリハビリテーションを提供できるよう日々臨床に励んでいます。

私は、回復期病棟のリハビリテーションに携わらせていただいております。早6か月が経過しようとしています。入社当初は、職場環境への適応や業務の習得に追われ、1日1日があっという間に過ぎていく感覚でした。担当する患者様が増えるにつれ、リハビリの質を保っているのか不安に感じることも多く、自分の知識不足や技術の未熟さを痛感する日々が続いています。

そんな中、上司に相談した際に、「100%できなくても、失敗をそのままにせず、次に活かしていく。その積み重ねが重要だ。」とアドバイスをいただきました。その言葉を受け、私は「完璧である必要はなく、失敗を放置せず、学びに変えていくことが重要」という考え方を意識するようになりました。

臨床をする中で、小さな失敗や課題に直面することが多々あります。そこで振り返りを行い、次にどう改善すべきかを考えるようになりました。また、知識不足を感じた際には、参考書や文献を読んだり、先輩方に質問を重ねることで少しずつではありますが、自信をつけることができています。

今後も失敗を恐れず挑戦し続け、患者様やご家族、そして多職種の方々から信頼される言語聴覚士を目指して、精進してきたいと思っております。

新人紹介

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院
小濱 真希

私は令和6年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在鹿屋市にある社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院に勤務しております。当院は急性期一般病棟、回復リハビリテーション病棟があり、介護老人保健施設や在宅にいたるまでの生活期リハビリテーションを複合型施設として地域に提供しています。私は回復期病棟のリハビリテーションに携わらせていただいております。入社し早半年が経とうとしています。

入社当初は言語聴覚士としての業務の流れや職場に慣れることに必死で日々時間が過ぎるのがあっという間でした。臨床においては患者様に介入した際、訓練を行うことに精一杯になりコミュニケーションをとることや患者様の反応の観察を十分に行うことができませんでした。また、日々の知らない言葉も飛び交い患者様の状態を把握するためには言語聴覚士の領域だけでなく、その他の領域についての知識も必要であることを実感し、自分自身の知識不足を痛感しました。

特に患者様を担当した際は、評価や自分で作成した訓練プログラムが患者様にとってこれで良いのかなど不安な思いがありました。しかし、患者様の貴重な時間をいただいていると考え、中途半端なりハビリを提供するわけにはいけないと思い自分自身でできる限りの努力をし、先輩方からの指導やアドバイスをいただきながら患者様と向き合っています。そして、他職種との連携を図ることの重要さも再確認できコミュニケーションを積極的に行っています。実際に患者様の回復の経過を見ていくなかで学ぶことは多く、毎日がとても新鮮です。1日1日を大切に、患者様の気持ちに寄り添いながら多くの経験を積んでいきたいと考えています。



言語聴覚士としてはまだまだ未熟ではありますが、勉強会や研修会に積極的に参加し専門性を高めるだけでなく、先生方の技術を学びながら臨床につなげていきたいです。初心を忘れず、成長し続けられる言語聴覚士を目指しこれからも精進して参ります。

事務局通信

3月

- ・ 会員動向について協議され承認された。
- ・ 枕崎市すこやか親子教室・相談事業における言語聴覚士の派遣に関して協議され、菊野病院に依頼することとした。
- ・ 鹿児島県介護実習・普及センター依頼の講師派遣について協議され、講師が決定した。
- ・ 鹿児島県言語聴覚士会言語聴覚士所属施設マップの開示について協議され、継続審議となった。
- ・ 令和6年度学術講習会スケジュールについて確認した。
- ・ 県士会活動概要の作成について協議され承認された。
- ・ 歯科医師会との連携について協議され承認された。
- ・ 各地区の組織化について協議され継続審議となった。
- ・ 理事および研修会等協力者への謝金（活動費）について協議され継続審議となった。
- ・ 鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会の報告があった。
- ・ 鹿児島市お達者クラブ事業について報告された。
- ・ ホームページ更新について報告された。
- ・ 令和6年3月実施予定の新人教育研修会の進捗状況について報告された。
- ・ 令和6年3月実施予定の生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告された。
- ・ 失語症者支援者養成について報告された。
- ・ PTOTST連絡協議会研修会について報告された。
- ・ 九州地区学術集会鹿児島大会実行委員会の進捗状況について報告された。
- ・ 鹿児島県歯科医師会言語聴覚士会意見交換会について報告された。
- ・ リハフェスティバル総括委員会について報告された
- ・ 快護フェス講演会・三笠宮瑤子女王殿下を囲む会（日本ユニバーサルサウンド協会）出席について報告された。
- ・ 鹿児島におけるヒヤリングフレイル予防の取り組みに関する交流会について報告された。

4月

- ・ 会員動向について協議され承認された。
- ・ 定時社員総会について検討された。
- ・ 指宿市発達相談会への講師派遣に関して検討され菊野病院に依頼することとした。
- ・ 令和6年度地域ケア個別会議について検討された
- ・ 鹿児島県言語聴覚士会 言語聴覚士所属施設マップの開示について検討された
- ・ 県士会活動概要の作成についてについて検討された。
- ・ 令和6年度予算について検討された
- ・ 地域局の組織化について検討された
- ・ 令和6年度お達者クラブ計画について報告された。
- ・ 広報誌計画について報告された
- ・ ホームページ更新について報告された
- ・ 学術講習会の進捗状況について報告された
- ・ 第24回新人教育研修会開催報告がされた
- ・ 令和6年度生涯学習基礎講座変更について報告された
- ・ 南薩地区症例検討会について報告された

事務局通信

- ・失語・認知・高次脳機能部会活動について報告された
- ・監査報告がされた
- ・歯科医師会主催の関係団体オンライン会議について報告された
- ・失語症支援者養成委員会について報告された
- ・九州学術集会について報告された
- ・鹿児島市地域ケア個別会議助言者の推薦依頼について報告された

5月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・施設マップに関して検討された
- ・理事会参加（会議費）について検討された
- ・令和6年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修について報告された
- ・ホームページ更新について報告された
- ・学術講習会の進捗状況が報告された
- ・令和6年度上半期新人教育研修会について報告された
- ・令和6年度上半期基礎講座について報告された
- ・災害対策部会について報告された
- ・失語症支援者養成委員会について報告された
- ・九州学術集会について報告された
- ・鹿児島高次脳機能研究会世話人会について報告された
- ・PTOTST連絡協議会理事会について報告された

6月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・快適生活フェス！福祉機器展&セミナー in かごしま 後援に関して協議され承認された
- ・鹿児島市口腔保健連絡協議会委員の推薦について協議され湯田理事を推薦することとした。
- ・施設マップの掲載及び情報収集について協議され、ホームページに掲載することとし、未登録施設にはメールすることとした。
- ・鹿児島県介護実習普及センター介護講座について報告された
- ・令和6年度地域リハ活動支援推進のための人材育成事業初期研修について報告された
- ・鹿児島市お達者クラブについて報告された
- ・ホームページ更新について報告された
- ・学術講習会について報告された
- ・生涯学習プログラムについて報告された
- ・始良霧島地区懇親会予定について報告された
- ・JIMTEFの参加者管理について報告された
- ・会費関連について報告された
- ・災害対策部について報告された
- ・訪問リハビリテーション研究会について報告された
- ・PTOTST連絡協議会について報告された
- ・九州学術集会について報告された
- ・失語症支援者養成委員会について報告された

7月

- ・会員動向について協議され承認された
- ・第26回糸賀一雄記念賞および第10回糸賀一雄記念未来賞推薦に関して協議された
- ・社会福祉法人天上会講師派遣に関して協議された
- ・鹿児島地区症例検討会について協議された
- ・北薩地区症例検討会について協議された
- ・臨床実習指導者養成研修会参加者について協議された
- ・鹿児島県介護実習普及センター介護講座について報告された
- ・令和6年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修について報告された
- ・お達者クラブについて報告された
- ・ホームページ更新について報告された
- ・ニューズペーパー記事寄稿について報告された
- ・言語聴覚の日イベントについて報告された
- ・災害多作研修会の開催について報告された
- ・発達部会研修会について報告された
- ・第25回仁人教育研修会の進捗状況が報告された
- ・令和6年度上半期生涯学習基礎講座について報告された
- ・会費管理について報告された
- ・大隈地区症例検討会発表者募集について報告された
- ・鹿児島県PTOTST連絡協議会代議員総会について報告された
- ・鹿児島JRAT総会について報告された
- ・都道府県士会会長会議について報告された
- ・九州学術集会について報告された
- ・失語症支援者養成委員会について報告された

8月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・南九州市長寿介護課「ヒヤリングフレイル講座講師派遣依頼」に関して協議された
- ・全国失語症大会ふくしま協賛金について協議された
- ・鹿児島県介護実習普及センター介護講座について報告された
- ・お達者クラブについて報告された
- ・令和6年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修について報告された
- ・ホームページ更新について報告された
- ・災害対策研修会について報告された
- ・発達部会研修会について報告された
- ・第25回新人教育研修会の進捗状況が報告された
- ・令和6年度上半期生涯学習基礎講座について報告された
- ・臨床実習指導者講習会受講日について報告された
- ・大隈地区・鹿児島地区合同の症例検討会について報告された
- ・北薩地区症例検討会について報告された
- ・訪問リハステップアップ研修会の再度の案内について報告された
- ・訪問リハ地域リーダー会議について報告された
- ・歯科医師会との合同研修会の講師について報告された

- ・九州学術集会について報告された
- ・失語症支援者養成委員会について報告された

9月

- ・会員動向について協議され承認された。
- ・始良伊佐地区令和7・8年度介護認定審査会委員の推薦について協議された
- ・日本海医療福祉研究施設パンフレット協賛名義使用依頼について協議された
- ・鹿児島県介護実習普及センター介護講座について報告された
- ・専門職アドバイザー、リハ専門職派遣事業について報告された
- ・今年度のリハ専門職派遣事業について報告された
- ・お達者クラブについて報告された
- ・ホームページ更新について報告された
- ・ニューズペーパーについて報告された
- ・言語聴覚の日イベントについて報告された
- ・南九州市長寿介護課「ヒヤリングフレイル講座講師派遣依頼」に関して報告された
- ・第25回新人教育研修会の進捗状況が報告された
- ・令和6年度上半期生涯学習基礎考査について報告された

令和6年9月理事会まで



学術局 (成人)

言語聴覚士は1997年に国会資格として制定され、有資格者数は右肩上がりに増加し、2024年には4万人近くまで増加しています。所属機関としては、医療・介護保険領域や福祉領域だけでなく、地域包括ケアシステム構想における介護予防領域やフリーランスなど、職能の広がりをみせています。言語聴覚士としての職域が広がりをみせる中で、職能団体としては、言語聴覚士の質の担保が課題として挙げられます。対象者を前にすれば、新卒であろうが10年以上の経験をもつセラピストであろうが、同じ言語聴覚士です。

言語聴覚療法の分野では日々新しい知見が生まれます。自身の専門領域だけの学習に偏ってしまえば、言語聴覚士として求められる広範な知識に疎くなりかねません。言語聴覚療法は疾患を診るのではなくコミュニケーションを行っている人を全体として診る仕事です。知識に偏りがあると、専門領域外の障害を見逃し誤ったアプローチを行う危険性も危惧されます。ST協会としては、言語聴覚士の質を担保する仕組みとして生涯学習プログラムや認定言語聴覚士制度を設けています。しかしながら、基礎・専門プログラムを終えたあとに認定を目指さなければ、知識のアップデートのために学習を続けるか否かは個人の裁量に委ねられています。もちろん、全ての領域を賄うことは難しいです。そのため、自分の領域外の知識は、各領域のスペシャリストと連携する中で、それぞれの知識をクロスオーバーさせ、共通言語として言語聴覚療法全体の知識や技能の更新を行う過程の中で、ジェネラリストとしての学びは必要であると私は考えています。

加えて、ライフワークとして取り組むことができ、言語聴覚士としての強みを見出すことができる専門領域を見出すことが必要だと思えます。言語聴覚士として「この領域だけは譲れない」と思える領域があると、学びは絶えません。では、どのようにして専門領域を見つけるのか？職場の同僚を見ていて感じることで、苦手であったり、悔やまれるような経験をし、それを乗り越えようとしている分野を専門領域にしているように思います。また、自分では当たり前でも、他の人には当たり前ではないことが多い領域が専門になりやすいように思います。

言語聴覚士としてそれぞれのライフステージがあり、人生におけるフェーズがあります。全速力で走れる時もあれば、ジョギングの時もあり、休憩をとることだってあります。長い距離を走り切るためのペースは人それぞれです。私自身、専門職としての歩みを止めないことだけ、自分に約束をしたいと思っています。

成人学術局 小倉道広

学術局 (小児)

今年の夏も猛暑が続きましたが、会員の皆さんはどのような夏の思い出ができたでしょうか？（私は暑いことを言い訳に、涼を求めてほぼ毎日白熊やガリガリ君のアイスを食べていたような気がします。）

さて、小児学術局では5月19日（日）に、カクイックス交流センターにて「第13回学術集会」を企画・開催致しました。新型コロナウイルス感染症の5類引き下げ後、約4年ぶりの対面による学術集会で、どのくらいの方が参加していただけるか心配をしておりましたが、学術集会では100名近くと多くの方に参加していただきました。「元気だった〜?」「久しぶりだね〜」など、受付や待ち時間で、再会を喜び合う姿があちこちで見られ、オンラインでは味わえない対面の良さを改めて感じることができました。

『小児の構音障害の評価と訓練』をテーマに、昭和大学歯科病院 言語聴覚士の武井良子先生をお招きし話ししていただきました。

小児の構音障害の基礎から評価、また評価時の注意点やポイント、そして構音練習の実際等、1つ1つ丁寧に時間をかけて分かりやすくお話していただき、あっという間の3時間となり、会員の方からも「もっと聞きたかった。」など、好意的なコメントもたくさんいただきました。

小児臨床や療育に携わる言語聴覚士だけでなく、成人分野や小児臨床の経験のない方など、幅広い施設からご参加いただき、先生からのメッセージを受けたことで、言語聴覚士としての存在意義や更に専門性に磨きをかける意識がより高まったのではないかと思います。

最後に小児学術局では、「鹿児島発達STネットワーク」のLINEを活用し、研修会やイベントの案内、また会員同士の情報交換の場としても利用していただいています。参加者も年々増えてきていますが、小児に限らず成人領域を対象にしている方や興味がある方など、どなたでも参加可能ですので、ぜひ迷っている方はいつでもご参加下さい！（招待など不明な点がありましたら、小児学術局担当松永までご連絡いただければ対応致します。）

学術局小児学術担当
児童発達支援事業所 bamboo
松永宏行



学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

令和6年3月30日(土)は基礎講座5『協会の役割と機構』、基礎講座6『研究法序論』を講師に学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校の松尾康弘氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。

基礎講座5では総数8名(県内WEB4名、県内現地3名、県外WEB1名)、基礎講座6では総数9名(県内WEB5名、県内現地3名、県外WEB1名)に参加して頂きました。

ホームページでも活動報告させて頂きましたが、基礎講座5は協会の役割と機構について、講師が全国理事ということもあり、細かい部分までとても分かりやすく説明して下さいました。日本言語聴覚士協会や各県士会への参加・協力が、STを盛り上げ、未来に繋がっていくことが分かりました。基礎講座6は研究について具体例も含めて丁寧に説明して下さいました。文献の読み方についても、勉強になることが多く、研究開始の第一歩になるのではないかと思います。

また、令和6年9月21日(土)は基礎講座1『言語聴覚士の倫理』、基礎講座2『臨床実践』を講師に株式会社L-はぴねすの西野将太氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

2024年度より生涯学習基礎講座の内容・タイトルの変更が行われています。下記に基礎講座タイトル対応表を記載していますので、ご確認をお願いします。内容・タイトルも変わり、今必要なことが学べるものが充実しています。回数の制限はありませんので、毎回の参加をお待ちしております。

基礎講座タイトル対応表

講座名	旧タイトル	新タイトル
基礎講座1	臨床のマネジメントと職業倫理	言語聴覚士の倫理
基礎講座2	臨床業務のあり方、進め方	臨床実践(基礎)
基礎講座3	職種間連携	チーム医療のありかた
基礎講座4	言語聴覚療法の動向	言語聴覚士のキャリア形成
基礎講座5	協会の役割と機構	職能団体の役割と言語聴覚士の責務
基礎講座6	研究法序論	エビデンスに基づく臨床(EBP)と研究法の基礎

*2024年度以降は、新タイトルでの講座受講となる
 *基礎プログラム修了の要件としては、講座名(基礎講座1-6)を満たせば、旧タイトル、新タイトルのいずれかの受講であっても認められる。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター リハビリテーション部 尾崎 幸平

TEL:0993-32-9999 FAX:0996-32-0496

学術局 (新人教育)

今年度は新人教育研修会を2回実施いたしました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

第24回研修会では、クオラリハビリテーション病院の黒木康先生をお招きし「STが関わるリハに必要なポジショニングの基本と実技を学び、ディサースリアもしくは摂食嚥下リハに繋がるヒントを得る研修会」と題しまして、実技をメインとした講習会を実施いたしました。講師と10名の参加者でポジショニングの実技を行いました。参加者の皆様から事前に質問を集めたのですが時間があっという間に過ぎてしまい、お答えできなかった内容も多くなりました。誠に申し訳ございませんでした。「また参加したい」、「もっと長くあっても良かった」など、前向きな意見を多くいただきました。講師の黒木先生の思いと、参加者の皆様のニーズが合致した研修会であったのではと思います。

第25回研修会では、加治木温泉病院の有川瑛人先生をお招きし「根拠に基づく失語症の臨床—認知神経心理学的エッセンス」と題しました、失語症に関する基礎的内容についての講習会です。卒業生へ研修会のアンケートを取ると、「学び直したい」とコメントが最も多い分野が失語症です。今回は新人、ベテランを含む26名の方の申し込みがありました。実は本稿執筆中は開催前ですので、詳細は次号にて報告させていただきます。

さて、私事ですが先日「PTOTST養成施設教員等講習会」に参加する機会をいただきました。教育論や教育心理学、教育方法論等を学ぶオンライン講習会で、全国のセラピスト養成校の先生と共に講義やグループワーク、ディスカッションを交えながら「教えるを学ぶ」3週間でした。カリキュラムのひとつ、教育実践論という講義で「我々が理論を学ぶ理由」についての話がありました。「準備万端で始めた講義でも、想定外のことや、うまくいかないことなど、だいたいイレギュラーなことが起きます。そんな不確実な実践の中で、少しでも再現性を高めようと思えるときに理論が必要なのです」ということばが非常に印象に残っています。卒前・卒後教育、臨床でいつも悩んでしまう私にとって、背中を押されるような、非常に得心がいくことばでした。

臨床から理論へ、理論から臨床へ。学生教育も、臨床も、後輩教育も、思考と気づきが繋がって流れる瞬間が一番楽しいですね！今後も仲間と繋がり、楽しく学びほぐす場を提供できればと思います。研修会への参加を心よりお待ちしております。

学術局 新人教育担当 木佐貴太陽
研修会の要望はこちらまで！
【Mail】 taiyo.kisanuki.st@gmail.com



地域局 (南薩地区担当)

令和5年度より地域局理事(南薩地区)の担当になりました、川路麻里亜と申します。理事に就任し、約1年半の月日が過ぎようとしています。

今年度は5月22日に、南薩地区症例検討会を現地とオンラインを合わせたハイブリッド形式で開催させていただきました。機材のトラブル等、不手際もあったかと思いますが、皆様のご協力もあり無事に検討会を終えることができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。参加者の中には、県外の方もいらっしゃる、普段関わることのない方々とも意見交換をすることができました。開催方法として、現地開催、オンライン開催どちらにもメリット、デメリットがあると思います。会員の皆さまのニーズをお聞きしながら、県士会の活動を盛り上げていきたいと考えておりますので、どんどんご意見をいただけたらと思います!!

さて、令和7年3月22日、23日には9年ぶりに鹿児島県で九州地区学術集会が行われます。私は鹿児島県で行われる九州地区学術集会に参加するのは、今回も合わせて二回目になります。一回目の参加は一年目の頃で、このような学術集会への参加が初めてということもあり、会場の雰囲気などに圧倒されていたことを思い出します。自分もいつか壇上に立って発表できるようになりたいと思っていたのが、つい最近の事のように思い出されます。あっという間に10年目になり、今回は発表者として壇上にあがりたいと思っています!(採択されればですが...) 演題登録の受付は8月13日より開始となっておりますので、ぜひ鹿児島県から演題がたくさん集まりますよう、奮ってご応募いただけたらと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<http://st-ba.net/%e7%ac%ac%ef%bc%91%ef%bc%93%e5%9b%9e%e3%80%80%e6%97%a5%e6%9c%ac%e8%a8%80%e8%aa%9e%e8%81%b4%e8%a6%9a%e5%a3%ab%e5%8d%94%e4%bc%9a%e3%80%80%e4%b9%9d%e5%b7%9e%e5%ad%a6%e8%a1%93%e9%9b%86%e4%bc%9a%e3%80%80/>

※皆様へのお願い※

地域局では会員への情報配信をLINEにて行っております。まだ登録がお済みでない方や職場などに登録されていない会員の方がいらっしゃいましたら、ご登録くださいますよう、宜しく願いいたします。

南薩地区担当理事 川路麻里亜



LINE 公式
アカウント

はじめました♪

- ☑ 重要な情報をタイムリーに。
- ☑ 研修会申し込みが簡単に。
- ☑ 変更届もスムーズに。
- ☑ 県士会が身近な存在に。

QRコードを読んで、すぐにお友達追加♪
@313psfby ID検索してもok♪

島県言語聴覚
Association of Speech-Language-Hearing

社会局（地域リハ・広域担当）

社会局(地域リハ・広域担当)

2024年7月28日に、地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業の初期研修をオンラインにて開催し、5名の方に参加していただきました。今回も地域ケア個別会議を想定したグループワークを行い、模擬症例に必要な支援を色々な視点からディスカッションすることができました。あっという間に時間がきてしまったとの声も挙がった為、次回からはグループワークの設定時間を見直す予定です。地域リハに従事する為に必要な初期研修、リーダー研修修了者を県域で見みると、地域によってはまだまだ人手不足の状態です。長時間の研修となりますが、地域リハの基本について学ぶことができる機会の為、未受講の会員の方々は来年度以降の受講を是非ご検討ください。

また、2024年8月28日に、鹿児島県介護実習・普及センター主催の公立学校共済組合鹿児島支部介護講座Eコースにて、鹿児島県内の小・中・高校の教員を対象に「誤嚥を防ぐ食事の姿勢と介助方法」という内容の研修をさせていただきました。表題の内容に付随して水分へのトロミの付け方や試飲体験をしていただき、いくつか質問も上がった為、興味を持っていただけたのではないかと思います。しかし、参加していただいた教員の1/3程度の方々は言語聴覚士の存在を知らないという回答であり、啓発活動の必要性を感じました。

さて、厚生労働省により地域包括ケアシステム構築の目処とされる2025年が近づいてきた現在、鹿児島県はどのような状態なのでしょうか。鹿児島市を例に挙げると、市町村や病院単位で介護予防事業等の取り組みが行われていますが、本市の特徴の一つとして、高齢独居世帯の割合に比べ在宅サービスの受給率が低い現状にあります。この要因の一つとして、介護保険制度の理解が不十分で適切なサービスを受けられていない人がいる可能性もあるとし、地域の現状や保険者として制度の理念や多様なサービスについて、地域の民生委員等を通じて情報提供する等、さらなる普及啓発活動が必要と報告されています。私たちに求められていることとして、高齢者やその周囲の地域住民を対象にした講演・啓発活動、地域コミュニティでの集団指導、地域ケア会議への参加などが挙げられます。また、地域の支援者であるボランティアの方々の養成する役割もあります。鹿児島県に住む高齢者の方々が生き生きと暮らせるよう、より多くの方が地域リハに従事していただけると幸いです。

鹿児島大学病院 医療技術部 リハビリテーション部門
川路 勇太

TEL：099-275-5704 FAX：099-275-6846



社会局 (地域リハ・鹿児島市担当)

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。まだまだ講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を随時募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

連絡先 鹿児島市医師会病院
言語聴覚士 瑞穂 哲也



社会局 (公共事業・保険担当)

[公共事業]

令和6年度は、鹿児島県介護実習普及センターより、5件の研修会（介護講座）の講師依頼がありました。以下のスケジュールとなっております。

やさしい介護教室F（受講対象：県民向け）2時間

開催日	講座名	会場	講師名
8/30(金)	誤嚥をふせぐ食事の介助方法	カクイックス交流センター	樋渡氏
11/9(土)	誤嚥をふせぐ食事の介助方法	カクイックス交流センター	竹中氏

介護職基礎研修D（受講対象：専門職向け）2時間

開催日	講座名	会場	講師名
7/26(金)	誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助方法	カクイックス交流センター	松尾氏
10/18 (金)	誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助方法	カクイックス交流センター	黒木氏

学校共済組合鹿児島支部 介護講座【Eコース】（受講対象：教職員向け）2時間

開催日	講座名	会場	講師名
8/27 (火)	誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助方法	カクイックス交流センター	川路氏

[保険]

令和6年度は、医療・介護・福祉の診療報酬改定が行われ、6月1日より施行されておりますが、現在診療報酬に関する問い合わせはきておりません。

診療報酬・介護報酬をはじめ施設基準等に関するご相談は、複雑な内容の場合、日本言語聴覚士協会に問い合わせをさせていただくこともありますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずはお気軽に県士会にお問い合わせいただきたいと思います。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>
 医療法人 玉昌会 加治木温泉病院
 総合リハビリテーションセンター 末吉 孝行
 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778

社会局 (広報担当)

9月1日は言語聴覚の日ということで、今年も言語聴覚士を県民の皆様幅広く知っていただくために、広報局では9月にイベントを実施しております。今年9月15日(日)にイオンモール鹿児島にて「ことばの相談会」を開催しました。開店と同時にお客さんが続々と増え、家族連れでとても賑わっていました。当日は各フロアでお子さん向けのイベントが企画されていたようですが、我々も負けじと風船を配布しました。



今年も相談ブースを設け、15件のご相談に対応しました。鹿児島市内だけでなく、北薩地区や南薩地区にお住まいの方もご相談にいらっしゃいました。相談内容はやはりお子さんのことばの遅れや構音の不明瞭さについての相談が多く、8割を占めました。「療育に行っているけど言語聴覚士さんがいません」「ことばの訓練を受けられる病院はありませんか？」など、需要が高まりつつある反面、まだまだ供給が不十分であること。また、地域によってサービスの提供に差があることも実感致しました。



一方で、ブースに立ち寄りパンフレットを手にとって興味を示してくださる方や、将来言語聴覚士を目指しています！という高校生がお話を聞きに来てくれるなど嬉しい出会いもありました。また、ことばの成長に不安を抱えた親御さんが相談を終えて少しホッとする表情をみることができると、今年も開催して良かったなと思えた瞬間でした。

今後も広報局は「ことばの相談会」を通じて、言語聴覚士を広く周知していただけるよう積極的な活動をして参ります。これからも会員の皆様のご協力・ご支援を心よりお願い申し上げます。どうぞ宜しくお願い致します。

公益財団法人 東風会 三船病院
大島亮平

財務局

会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。

財務局担当 無所属 鎮守美和です。

6月に会費の引き落としをさせていただきました。

不備やご不明な点、領収書のご希望などございましたらご連絡ください。

口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますよう
よろしくおねがいいたします。

また口座登録用紙が必要な方もご連絡いただけましたら
対応させていただきます。

財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp

担当 鎮守美和



☆編集男紙☆

会員各位

平素よりお世話になっております。いつもニューズペーパーをご覧くださいありがとうございます。今回の編集はキラメキテラスヘルスケアホスピタルの米倉が編集させていただきました。広報局員として広報活動を行いながら、会員の皆様に少しでも良い情報をご提供できるように精進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

広報局では、広報活動へ興味があり、ご協力いただける会員の方を随時募集しております！興味のある方は是非ご一報ください。（[お問い合わせ - 一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会 \(st-ba.net\)](http://st-ba.net)）我々、広報局員と一緒に鹿児島県の皆様へ言語聴覚士という存在を…仕事や役割を…これからも活躍できる場が多くあることを知ってもらいましょう。また、会員の一人一人がその役目を担っていることもお忘れなく日々の業務に励んでいただきたいと思います。願っております。

末筆ながら、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

米倉 拓哉